



国際ロータリー第2610地区

南砺ロータリークラブ

なんと

NO. 2454

URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail office@nanto-rc.jp



例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/富山銀行福光支店4階 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ふくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

撮影 写真同好会 荒井 進会員



カレド君結婚式

6・10

◆第2回理事会報告 山田 孝幹事

- ①ガバナーマンスリーの閲覧方法。今期はウエブサイトからのみ
- ②地区大会登録料：12000円の内個人負担7000円、家族：8000円。R I 会長代理晩餐会18000円(会負担)
- ③新会員の齊藤文治君、谷村賢治君の入会手続きを進めます。

◆幹事報告 山田 孝幹事

- ①G事務所より、「R財団地区補助金」振込みのお知らせ
- ②G事務所より、「8月会員増強・新クラブ結成推進月間」の案内
- ③G事務所より、2019年8月RIレート1ドル：108円の案内
- ・G事務所より、金沢北RC移転のご案内
- ・水見RCより、創立50周年記念誌の贈呈を拝受
- ・射水RC、高岡万葉RCの例会変更の案内
- ④次週8/13の例会は8/15城端別院での早朝例会になります。
- ”アンコロを注文された人は間違いなくお引き取り下さい！”
- ⑤8/24ふれあいフェスティバルは、10～11時清掃、11～15時フェスティバル

♣ 8月誕生月祝

3日松井洋司君
18日山田 孝君

♥ 8月結婚記念日

1日湯浅勇貴君

◆委員会報告

●雑誌・広報委員会 松村 壽副委員長

表紙は廃車の電車に2匹の猫、タイトルが「遠雷」猫画の有名イラストレーターの作品ですがもう80歳のセンスではついていけません。「趣味を通じてつながろう」は当クラブでも威力発揮の同好会特集、いやいろいろありますね。終わりに近く「痛風友の会」は痛風と楽しく付き合いつつながら美食とお酒を楽しむというユニークですね。R I 認定の国際的な同好会が50ほど、系図研究者、ヘビメタなど変わったものもあります。会員増強推進月間で実績充分の91歳のベテラン増強委員長の新会員勧誘の8つのポイントを紹介。「数打てば当たる」は時間の無駄です。まだまだたくさんありますが紹介し切れません。

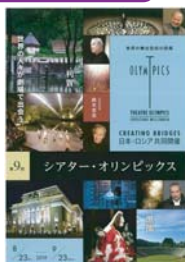
★ニコニコボックス 8/6 山田喜代美委員長

川合君 今日の誕生祝いは12ヵ月の中で一番少ないようです。
木本君 卓話です。よろしくおねがいします。
山田孝君 誕生祝い、ありがとうございます。
吉田君 田んぼのヒエ取りや畔の草刈りでバテぎみです。稲刈り始まるまでがんばります。
尾山君 猛暑って言うよりも爆暑？涼・涼・涼を求めて立山大汝(オナンジ)山に行つて来ました。案の定登山道は大渋滞。天空の空は涼しく、下山する気持ちになれなかった。
岡部君 暑いですね。今日の卓話は木本さん。楽しみます。
荒井君 木本さん、卓話楽しみにしております。
松井君 誕生祝いをありがとうございます。一応元気です。
石崎博君 年とると、あんまりいいこともないと。
野村君 木本さん、楽しみです。勉強させて下さい！
久恵君 長男が逆単身赴任で早や1ヶ月。奥方の声が心なしか弾んでいるように思います。「メンドウクサイ」といつつ、弁当を楽しく作っています。
高野君 片山浩君、牧君/木本さんの卓話楽しみます。
大西君 8月6日、今日は広島原爆の日。合掌!!
谷村君 白山登ってきました。両足筋肉痛でヒザが笑っております。
船藤君 先週の日曜日、地区の情報委員長会議がありました。岡部バスターガバナーの講話があり有意義な会でした。岡部さんありがとうございました。
木村君 暑い！汗が眼に入り眼がショボショボの！毎日。梨もこの10日から販売予定にしていますが、1～2日遅れかも？皆さんよろしくお願ひ致します。
中田裕君 今期1年、結婚記念日お祝いは千華園さんのお花です。すごく豪華に作ってもらって感謝です。
松本君 高商がんばれ！
神君 暑い!! 遅刻してきた上に、早退します。すみません。
山田喜君 バーベキュー親睦会楽しませて頂きました。お世話頂きました中田先生、三吉先生の奥さまはじめ、N&Kさん、有難う御座いました。南砺市の人材ってすばらしいですネ。財産です。
中田修君 早退します。

第2514回例会 令和元年8月6日(火) 晴

- ◆点 鐘 12:30 川合声一会長
- ◆司 会 吉田 実 SAA
- ◆国 歌 「君が代」 Rソング 「四つのテスト」
- ◆会長の時間 川合声一会長

今日は！8/23～9/23の南砺市利賀村を中心に開催される第9回シアターオリンピックについて…
・世界の舞台芸術の祭典が人口500人ほどの利賀村で開催されるか？不思議なことだと思いませんか？
・それも、今回はロシアと日本の共同開催でロシアのメイン会場はサクトペテルブルグ(旧レーニングラード)、人口535万人の大都市、国立アレクサンドリンスキー劇場で開催される。
・このシアターオリンピックは1994年に利賀村に本拠をもつスコットの舞台芸術監督の鈴木忠志さんほかギリシャのテオドロス・テルゾプロスさんほか世界的な演出家劇作家が創設。第1回は95年にギリシャで開催、これまでに8か国で開かれ、日本では第2回静岡以来、20年ぶりの開催です。
・ロシアとの共同開催に至る過程で、若いころ、列に並んでチケット買ったことのあるブーチン大統領の後押しもあり、安倍首相も理解を示すコメントも日露首脳会談後の記者会見の席でも披露され、本年の国家的な行事のひとつ。
・日本側の会場は利賀村と黒部市。16の国・地域からの代表的な演出家が30作品を上演。
・鈴木さんは1976年スコットの前身、早稲田小劇場の仲間を引き連れて、東京から利賀村に移転。合掌造りの古民家を友人の建築家磯崎新さんの協力を得て、劇場に改装。今では野外劇場を含む、大小6つの劇場。稽古場を持つ。毎年夏には、鈴木さんの考案した俳優の鍛錬法「スズキ・トレーニング・メソッド」を学びに、世界中から若手の演劇人はもとより、舞台演出家が集まり、スコットサマーフェスティバルが開催。
・今年はトレーニングの様子も公開され、南砺市内の中学生も昼の部には実際の演劇にも招待され、地方でも世界でも超一流の演劇文化にも触れる機会が設けられます。
・70年代人口1000人だった利賀村も過疎化が進み、今や約400人に一方・サクトペテルブルグは人口535万人の大都市。
「対象的だから面白い、規模の大小を超えて、結びつのが芸術。鈴木さんはずーっと利賀から世界を相手にしてきた」とおっしゃっています。



主な上演作品は、鈴木代表作「リア王」シェークスピアの傑作を大胆に解釈し、主人公を病院で死を待つ老人として描く。5か国の演劇人の競演。デルソプロス演出の「トロイアの女」、ローバート・ウィルソン演出「無のレクチャー」ほか鈴木忠志演出の「世界の果てからこんには」エンディングには野外劇場の舞台背景の百瀬川から打ち上げる豪快な花火が有名など。

パンフレットが用意してあります。ぜひ、この1か月間、プログラムの中から曜日と演目を選んで。南砺市が文化芸術都市として文化庁からも選ばれていることも添えておきます。実感してください。

本日のプログラム 8月15日(木) 第2515回
《早朝例会》城端別院 6:15例会 輪番法話
6:30～7:00 担当 会長 川合声一君

◆出席報告 久恵龍三委員長

会員数	8月6日出席率	7月23日の修正
47 (免除0)	74.46% (欠12)	85.11% (欠7メーク1)

メーキャップ: 澤田喜朗君。



『実相観の祈り』

われ神の子 完全不壊の神の子、むれさきの光、わが体内に流れ入る流れ入る、われ日の御神のいと子なり、いっさいの障悪、むれさきの光で灼きつくし灼きつくし、われいま神の本体をあらわす

いやさやけ いやさやけ

わがたましいは神のわけみたまなり、故にわれ実相を観ずれば、万物われに融けこみ宇宙なりひびき、神の栄光天地にみなぎりわたる、われを蝕む者も、われに刃向かう者も、われ祈らば神にしたがいわれと一体になる、かくて世はむれさきの楽園となるなり

いやさやけ いやさやけ

われに病なし、われを害するものなし。病は魂の迷妄。そのまよいのカーテンをとりはずして、神の光むれさきの光の流れこませよう、希望と歓喜の光の流れこませよう

神 常に我とともにありたもう

われ 常に神とともに歩まん

健康なり 幸福なり

いやさやけ いやさやけ



ベートーベンの第九交響曲「歓びの歌」というのがありますね。あれは、ベートーベンがそういうものを描写したと思うんです。あらゆるものが歓んでいる。全てのものが楽しんでる。全てのものから光があらわれている。神の栄光が天地宇宙にみなぎっている。全てのものが歓びに満ちている。

われを蝕（むしば）む者も、われに刃向（はむか）う者も、

蝕むとは虫が食うこと、つまり病いです。刃向う者とは外から喧嘩してくる人。

われ祈らば 神にしたがい われと一体になる

そういった人もふくめて全ての人は、私が祈ったならば神様の言う事を聞いて私と一つになる。病気も何もかも一つ、全てのものは上手く行くようになっているんだ、ということです。

かくて世は群咲の楽園となるなり

そうして世の中は神の花がそこらじゅう一帯に満開になり楽しい世界になる。

◆◆ 第三節 ◆◆

われに病なし、われを害するものなし。病は魂の迷妄(まよい)。

最初にもう一度、念をおしています、ただし病とは肉体の病気だけではなく、精神的な病も運命の病も入っています。「物事うまく行かない」という事がみんな入っています。そういう病はみんな魂の迷いである。「病がある」と思うのは魂の迷いである、ということです。

そのまよいのカーテンを とりはずして 神の光 むれさきの光の流れこませよう、

病だと思っているものは大したことはない。そんな迷いをとるにはどうしたら良いか。

まず、我々の心のカーテンを開きなさい。外は燦燦（さんさん）と太陽の光がさしているというのに、夜はすぎて朝になり明るくなったにもかかわらず、なぜ

あなたはカーテンを閉めていますか。開けなさい！カーテンを！

外から見られないようにカーテンを閉めて家の中でコソコソ何かをやる、そんな馬鹿なことはやめて、外から見られるように開けなさい。「心の内を開きなさい」という事ですよ。そして素直になって、外から神の光の流れこませなさい！

希望と歓喜の光の流れこませよう

「良くなるぞ」「すべて良くなるんだ」「これでおしまいじゃない」という希望。歓喜とは感謝、わあっと笑うような歓び。そんな希望と歓喜の光を心の中に流れこませなさい。

神 常に我とともにありたもう

神様はいつも私とともにいらっしゃる。

われ 常に神とともに歩まん

これが肝心です。歩まんということは「今はまだ歩んでいない」「普段は歩んでいない」のです。歩んでいたら「われ常に神とともに歩むなり(私はいつも神様と一緒に歩んでおります)」とならずです。

歩んでいないから「神様と一緒に歩きましょう」と自分で言うて聞かせるのです。決心するんです。

さあ歩みましょう！ぼやぼやしてはいけません。歩みましょう！

健康なり幸福なり

結論はこうです。健康にして幸福な人生を送るためには、こうせよ！と書いてある。それには「神 常にわれとともにありたもう われ 常に神とともに歩まん」なのです。

さあもう一度読み直してみましよう。何度も何度も読ませていただきます。これまで祈ってきた言葉、わかったつもりでいた言葉の中に、神様の愛が込められていたことに気づかれたでしょう。

私たちが唱えているこの『実相観の祈り』は、いわば紫光学苑の般若心経（はんにゃんぎょう）だと思ったら良いんですよ。でもどうですか。迷いがなく、ハッキリしているでしよう。こうすればこうなる、という風に、ただし解説がいますよ。

《いっさいの障悪 むれさきの光で灼きつくし灼きつくし》

とありますが、懺悔の行によって、一切の障悪が灼きつくされるのです。《われ祈らば 神にしたがい われと一体になる》の「われ祈らば」とは、すなわち「懺悔の祈りによって」という意味です。

《まよいのカーテンをとりはずして》とは、すなわち懺悔の行により取り外す、という意味です。そうして全て明るくなっていくのです。

(今回の会報担当・高野 実)

昭和21年8月1日国王社においてあたえられた祈りの言葉

『実相観の祈り』の解説 (二代苑主川上正次郎先生の然講より)

◆◆ 第一節 ◆◆

われ神の子 完全不壊(かんぜんふえ)の神の子

この言葉が紫光学苑の教えのエッセンスであり、一番大事な精神です。私は神の子である。しかもその神様は何かと言ったら、完全不壊(かんぜんふえ)であるということです。この《完全》と《不壊》は意味が違う二つの言葉なんです。

まず《完全》というのは今の状態です。今どこから見ても傷がないということです。《不壊》というのはこれから先の状態。これから先、傷ができないということです。

この世の中にある、あらゆる物はみんな時の流れの中にあります。たとえば新品の自動車、これを《完全》と考えましょう。それから乗って1st走ったら、その分だけ自動車は古くなりますね。

ところが神様は《完全》であって《不壊》。ということは古くならないということなんです。時の流れにさらされない。一年たっても十年、百年たっても《完全》であり、そして常に新しいのです。時がたったら古くなるのは物質です。目に見える物はすべてそうです。けれども全宇宙を支配し、宇宙の根源であり、全ての物の根本であり、あらゆる物の親であるところの神様は絶対古くならないということです。

では何を指して《完全》というのかわかりますか。神とは愛です。だから形じゃなく愛において《完全》ということです。ということは、わけへだてなく全てのものを愛する、しかも自分の悪口を言う人も愛するのです。紫光讃歌にあたたかい光を全てのもの、善人にも悪人にもまんべんなくあたえている、あの太陽のようにあたたかい愛の神様という意味です。私たちは、そのいと子である。いと子とは愛されている子供、だから私たちは神様から愛されているのです。

いっさいの障悪(しょうあく) むれさきの光で灼きつくし灼きつくし

あらゆる邪魔もの、一切の悪は、この神の光で焼きつくされる。われいま神の本体をあらわす。本体とは本当の姿です。神様とは愛ですから、神の本体とは愛そのものです。つまり愛そのものに生まれ変わる、ということです。私たちはあらゆるものに対する愛そのものになる。怒りや憎しみや偏見、差別をなくして、すべてのものに愛そのものになる。

いやさやけ いやさやけ

「さやけ」とは「清らかで明るい」「すがすがしくて気持ちが良い」という意味ですね。

◆◆ 第二節 ◆◆

わがたましいは神のわけみたまなり

二番の最初も、一番の最初の「われ神の子」と同じ意味です。神様が大きな魂であって、私の魂はその神様の一部分の魂。つまり私は神の子だ、ということです。

故に、われ実相を観ずれば

実相とは本当の姿ということです。だから、自分の本当のもの、つまり「われは神の子である」という事に目覚めたならば、

万物われに融けこみ宇宙なりひびき、神の栄光天地にみなぎりわたる

万物とは全てのもの、憎いものも悪いものも全て。敵も味方もない、全て自分にとけこんでいる。栄光とは栄えの光ですよ。神様の栄える光とは、健康の光、幸福の光。それがそこら中にみなぎりわたっている。

次回の予定 8月20日(火) 第2516回
 会員増強フォーラム
 担当 会員増強委員長 渡邊秀一君